

第3回 LRT が走る未来の KOBE を考える座談会 議事要旨

1. 日 時 令和4年1月25日(火) 15時00分～17時02分

2. 場 所 神戸市役所4号館1階本部員会議室

3. 議事概要

(1) 開 会

- ・ 資料1「座談会の開催趣旨」について事務局より説明
- ・ 若松担当局長挨拶

(2) 事務局説明

- ・ 資料2「第2回座談会の振り返り」について事務局より説明

(3) 意見交換

- ・ 資料3「意見交換資料」に沿って、意見交換のテーマごとに適宜事務局から第1回、第2回座談会の振り返りを紹介しながら、「新たなテクノロジー／他のサービスとの連携」をテーマの中心として意見交換を行った。

① モビリティの連携

○前回までのご意見の振り返り（事務局説明）

- ・ 現状の課題（移動手段の連続性、都心部の渋滞、自転車による移動の課題など）
- ・ 回遊性・利便性を高めるサービスして、パーク&ライドや料金サービス、など

○モビリティを取り巻く状況の紹介（楠田委員）

- ・ 様々な移動手段とまちづくりとの連携、各移動手段の接続性の課題
- ・ 国土交通省での取り組み・検討など（モビリティハブ、バスターミナル）

○委員の主な発言

（他の移動手段・モビリティとの連携）

- ・ 神戸のまちも、LRTの電停で色々な移動手段に乗り換えられる設計をすると魅力的。ヨーロッパなど海外事例もうまく活用できれば良い。
- ・ パーク&ライドにとっても可能性を感じる。将来の三宮では、車は全て地下駐車場に停めて、地上は緑で囲まれてLRTが走り、自転車等の専用レーンができればとても良い。
- ・ モビリティのカラーコードを統一している事例もある。
- ・ 初めてのまちに行った時に、乗り方の分からないバスは多いが、電車はどこに行っても簡単に乗れる。違いは、改札があるかどうかだと思う。神戸でも、ゲートなどを介してその中にあるモビリティやLRTが一つのカードで乗れる仕組みがあると、気軽に分かりやすい。
- ・ コベリンは事前登録、電車は乗車券など、今は乗り物毎に乗車方法が異なる。それらがすべて同じ方法で乗れる特定のエリアがあって、そこにゲートがあると面白い。

- ・ 折り畳み自転車があると電車と組み合わせて広範囲に移動でき、疲れたらまた折り畳んで電車に乗ることもできる。LRT もこのような形でモビリティ連携できたら良い。

(回遊性・利便性を高めるサービス (モビリティ))

- ・ 新しい場所では、案内がきちりしていて、安心して移動できるのであれば、たとえ乗り継ぎが悪かったとしても、点と点の間にある魅力を、余裕を持って楽しむことができる。
- ・ 都心に住み、自転車で移動する人が増えたが、駐輪場が少なく困っている方もいる。
- ・ 駅付近に駐輪場があっても、目的地の近くで自転車を止められないことが多い。車をできるだけまちから減らし、駐車場を駐輪場に変えるなどできれば良い。
- ・ 子連れだと自転車が借りられない。例えば、小さい子もヘルメットと自転車を借りられる等ができれば、神戸ならではの面白い取組みになるのではないかな。

(未来のまち・ライフスタイルへの期待)

- ・ ナイトカルチャー、ナイトライフはすごく魅力。前回の座談会で出た、夜景をより楽しむために LRT 車内を一斉消灯するアイデアはすごく良い。ポートループで居留地付近を走ったときに、ヨーロッパの昔の町並みみたいで格好良かった。

○MaaS (Mobility as a Service) に関する紹介 (楠田委員)

- ・ 欧州での先進的な MaaS の取り組み (移動情報の検索、予約・決済等)
- ・ フィンランドのゾーン料金制、その他ドイツやスイス、オーストリアの事例紹介

○連節バス協議会での議論の紹介 (事務局説明)

- ・ ポートループの利用者数の推移、アンケート結果 (利用者の訪問場所、訪問施設数など)
- ・ ポートループの 1 日乗車券の取り組み

(回遊性・利便性を高めるサービス (スマホ活用・料金面など))

- ・ スイスやオーストリア等では、エリア内の公共交通機関が一定期間乗り放題となる仕組みがアプリで提供され、非常に利便性が高い。神戸でもアプリを組み合わせると使い勝手の良い設計が作れたら良い。
- ・ 乗り放題券はハードルが高い。結果的に買ってあげれば良かったことはある。複数回乗れば自動的に一日乗車券が適用されるようなサービスがあれば良い。
- ・ アプリで支払いだけでなく、目的地への移動や滞在にかかる時間、バスの到着時間予告などを通知してくれればさらに良い。
- ・ ヨーロッパでは移動検索・予約・決済がアプリで簡単にできて便利だった。神戸市内だけでなく、関西全体のエリアで同様の仕組みが出来れば良い。
- ・ 観光客にシティー・ループの一日乗車券を紹介する際は、乗車回数のメリットよりも、乗車券提示による施設の割引特典等を PR している。
- ・ ポートループ利用者の訪問施設数が少ない課題は、施設の割引特典等が増えれば行ってみたくなるかもしれない。

(その他)

- ・ 効率性や利便性を求めるあまり、人と喋る機会が減るのは怖い。子供の教育やリテラシーなど、便利さだけではない面を一緒に考えることが神戸でできれば良い。
- ・ 人との触れ合いを維持することも、まちの大切な機能。
- ・ アプリは、ダウンロードの機会をどう作るかが非常に重要。
- ・ スマホやアプリで取り残されるお年寄りのことも考える必要がある。
- ・ スマホやアプリを使いこなせない方もいる。テクノロジーだけではない人の温かさやカバーも考えていく必要がある。

② テクノロジーとの連携・活用

○前回までのご意見の振り返り（事務局説明）

- ・ 現状の課題（切符を買う手間、買い物客や観光客の荷物など）
- ・ 決済や荷物からのストレスフリーの意見として、財布を出さない決済の仕組みや、LRT による荷物運搬サービス、各駅の荷物預かりスポット、など

○最近の新たなテクノロジーの紹介（佐合委員）

- ・ QR コードによる音声案内サービス、地域通貨プラットフォームアプリ、窓ガラスディスプレイの技術、古地図と現代の地図を見比べられるアプリ、混雑情報の地図情報への連携サービスなどの紹介
- ・ 神戸市スマートシティ協議会の取り組み
- ・ スマホが苦手な方への助け合い、など

○委員の主な発言

(テクノロジーを活用したサービス連携①)

- ・ 地域通貨の仕組みを活用し、メリケンパークのクリーン作戦に参加して付与されたポイントで LRT に乗車できるなど、イベントと LRT の運賃支払いを絡めた使い方もできるのでは。
- ・ LRT 車内や電停にデジタルサイネージを設置し、古地図と現在の地図を切り替えながら LRT の現在走行地点を見られたら、かつての市電走行ルートなどもわかり面白い。
- ・ インターネットの地図サービスと観光マップ、スタンプラリーを組み合わせることで、LRT での移動中にもふらっと降車する気になったり、地図を活用するきっかけになる。
- ・ LRT を電停で待つ間にデジタルサイネージで、沿線のコインロッカーの空き情報や周辺店舗の混雑情報を見ることができれば、その後、下車する場所の計画が立てられる。
- ・ アプリを都度起動しなくても、近くに行けばお勧めスポットが通知される機能があると良い。
- ・ 窓ディスプレイや AR で昔の神戸の風景が見られたら良い。
- ・ QR コードで案内をするサービスは、様々な方にとって使いやすい。
- ・ 簡易な機器を装着することで、目の前に映像や矢印が出て、音声やナビもできるようなテクノロジーがあれば良い。
- ・ 現金やクレジットカード、カード系がなくても、顔認証などで乗車できると便利。

○前回までのご意見の振り返り（事務局説明）

- ・ 現状の課題（様々な移動手段の連続性と市民や観光客への伝え方など）
- ・ まちの情報発信につながる提案として、住んでいる人しか知らない情報の面白さや SNS の活用、など

○連節バス協議会での議論のご紹介（事務局説明）

- ・ ポートループは見た目に特徴があるので乗っても特徴があると良い、バス自体を観光コンテンツとした活用、若者の SNS 発信力の活用、など

（テクノロジーを活用したサービス連携②）

- ・ マイナンバー活用については、外国からの観光客はマイナンバーを持っていないので課題がある。SNS 等アプリのアカウントや E メールアドレスで連携する手段もあるかもしれない。
- ・ もし神戸で LRT が走ったらそれだけで最先端。LRT 車内に観光ガイドがいて、遠方の方もロボット経由で参加して一緒に話を聞けるような「ハイブリッド型ガイド」ができる車両があれば面白い。
- ・ 実際の地図と手描きの地図を重ねられる技術があるので、例えば、ワークショップで子どもたちに神戸大橋やポートタワー、近くのおいしいお好み焼き屋など、地元の人しか知らない地図を描いてもらって重ねてみるとか。さらに MR (Mixed Reality : 複合現実) 機能をもつゴーグルでその描いた絵をバーチャルに見せる、といったことも LRT のアトラクションとして考えていける。

（市外への情報発信）

- ・ 遠方から神戸に来てもらうためには、新しい切り口が必要。神戸は、“都会なのにちょっとローカルっぽいところが疲れないまち”といった発信ができると良い。
- ・ コロナ禍ではオンラインツアーにより、例えば現地にいるロボット経由で参加する旅行サービスなどもあり、現地に行かずに楽しめる仕掛けも出てきている。遠方の人への情報発信や、遠方の人に神戸を楽しんでもらう観点からも取り入れていけたら良い。
- ・ 「LRT が走る神戸」自体がブランドになり、遠方からの観光客も多くなる。オフィシャルで紹介されている観光地だけではなく、ブログ等に掲載されていたり、地元の人しか知らないようなところに LRT で行けると良い。
- ・ 情報発信の観点では、ローカルな情報ほど反応が良い。例えば、店の紹介をする場合でも、そこで働く人を事前に知り、さらに現地で本人に会えるとすごく心に残る。

（未来のまち・ライフスタイルへの期待）

- ・ まち自体が、LRT が走るテーマパークというイメージ。いつもイベントや行事等が開催されていて、年間パスの購入や食事に行くきっかけを作るような発信ができれば良い。
- ・ 富山では、まちなかメリーゴーランドと呼ばれる LRT に乗って、考え事をしながら一周したこともある。そういう時間を作れるのも安心して乗れる LRT の良さ。

③ その他

○連節バス協議会での議論の紹介（事務局説明）

- ・ アンケート結果（ポートループを利用した理由、しなかった理由等）
- ・ 「ポートタワー前バス停」前でのアートを活用した待合空間
- ・ バス停自体をまちのスポットとして活用検討する必要性、など

○委員の主な発言

（電停の活用）

- ・ 電停ごと全部広場だったら良い。例えば、ベンチを設置して人が集まる場所を作って、その隣にLRTの乗り場があるようなイメージで、点々と広場が出来れば良い。
- ・ 各電停で、地域ごとの個性や特色があれば良い。
- ・ 電停に人が集まって時間を過ごせると面白い。夜になったらバーになるとか。
- ・ 全国の珍しい駅を特集しているサイトがあり、みなと元町駅など独特な佇まいの駅は評判が良い。LRTの電停がシンボライズされると、興味を持って来る人も出てくる。例えばパンダやポートタワーの像を作るなど、「LRTが走る神戸」をブランド化できると良い。

（バリアフリー）

- ・ ヨーロッパでも低床型のLRTが増えている。車椅子の方や体の不自由な方、高齢者、ベビーカーを押す方にとっても非常にストレスフリーで、水平エレベーターのようにとても使い勝手が良い。日本は段差が多いため、電車やバスに乗るときに駅員に手伝ってもらうシーンも多く、公共交通を使うことに対して抵抗感のある方が沢山いる。ハードルが変わることで暮らしが変わる。

（軌道の存在）

- ・ 専用の軌道や道路があるLRT・BRTは走行ルートを進むことができるが、バスは分かりにくい。LRT・BRTは誰にとっても分かりやすく安心感がある。
- ・ 初めて行く目的地だと近いバス停を調べても分かりにくいので、LRTのようにレールがあることはこれ以上ない安心感がある。飛び乗れる安心感は大きい。

（景観）

- ・ ヨーロッパのLRTはとてもお洒落。形やカラーリングも大事。LRTが走ることでまちが映え、古いまちなみと最新の車両で美しく美しい絵になっている。静的なまちと動的なLRTが、新たなまちなみを生み出すことで、躍動感の伝わるまちとなり、それを見るのも楽しい。

（環境面）

- ・ LRTができて、徒歩や自転車で移動する人が増えると、車が減り、環境にも良い。
- ・ 環境問題は世界的なトレンドで、特に欧州では国民の意識が非常に強い。ドイツでは自動車メーカーも協力して、都市部の車を減らし、公共交通の維持を考えながら移動手段のシェアリングサービスを提供する時代。そのために道路空間を作り直し、環境に優しい移動手段を使っていく取

り組みが進んでいる。国際都市である神戸でも、世界のトレンドに乗り遅れないような取り組みを期待したい。

(未来のまち・ライフスタイルへの期待)

- ・ お洒落なデザインやカラーリングの LRT の存在は、そのまちに住みたい、働きたいというまちの価値向上につながるのではないか。
- ・ 「LRT が走る神戸」は、海外にもブランドアピールができる。
- ・ LRT が走ると、印象やインパクトという観点でやはり大きく変わらと思う。道路に電車が走ることは、それだけでもわくわくするし、そのまちに来たくなる。
- ・ 神戸の観光自体、昼のイメージが強く、港でも夜は何もやっていないことが多い。ナイトエコノミーのコンテンツが増え、そこを LRT で周遊できると宿泊客の増加につながる。
- ・ レールがあると、もし行き先を間違ってもレールをたどれば帰れるので気軽に乗りやすい。

(その他)

- ・ 広いフラワーロードではキックボードと併せて自転車レーンなどの整備もイメージに入っていたら良い。
- ・ 日本でも高齢化時代で車に生涯乗り続けることが難しくなっている。LRT やそれ以外の公共交通、パーソナルモビリティを総動員して神戸で一生涯心配なく暮らせる社会となっていってほしい。

報告書のとりまとめ方向性

- ・ これまでの意見交換のテーマをベースにした構成で、イメージイラスト等を交えながら、事務局と個別に委員でやりとりし、3月までに取りまとめる。

(4) 閉 会

以 上